

令和3年度地域包括支援センター事業評価 様式

(矢切) 地域包括支援センター

評価指標の定義

- 4: 大変よくできている
- 3: ある程度できている
- 2: あまりできていない
- 1: まったくできていない

1. 組織／運営体制

| 評価項目 | 回答欄 | 行政評価 |
|-----------------------------------|--|---------------------|
| ①地域包括支援センター「事業計画」が適切に作成・実行されているか。 | 4 | 3.86 |
| 評価の根拠 | ア. 市町村が定める運営方針の内容に沿って、センターの事業計画を策定しているか。 | いる |
| | イ. 事業計画の策定に当たって、市町村と協議し、市町村から受けた指摘がある場合、これを反映しているか。 | いる |
| | ウ. 市町村の支援・指導の内容により、逐次、センターの業務改善が図られているか。 | いる |
| | エ. 市町村が設置する定期的な連絡会合に、毎回、出席しているか。 | いる |
| | オ. 「事業計画」を法人として決定しているか。 | いる |
| | カ. 「事業計画」の進捗状況のチェック及びチェックに基づく業務改善を行っているか。 (最低月1回チェックしていれば「いる」を選択) | いる |
| | キ. 重点項目 5つの重点項目について、前年度事業評価より業務改善(又は達成)出来ているか。 ※この重点項目は除く | 2項目以上で改善(又は達成)出来ている |
| ②担当する圏域における利用者のニーズの把握を行っているか。 | 4 | 4 |
| 評価の根拠 | ア. 市町村から、担当圏域の現状やニーズの把握に必要な情報の提供を受けているか。 | いる |
| | イ. 把握した担当圏域の現状やニーズに基づき、センターの取組における重点項目を設定しているか。 | いる |
| | ウ. 独自に担当圏域のニーズを把握しているか。 | いる |
| | エ. 把握した担当圏域のニーズに基づき、実務実施上の工夫や配慮を行っているか。 【令和3年度の取組が対象】 | いる |

| 特記項目 |
|--|
| |
| <p>「キ」について、業務改善出来た重点項目に○を付ける</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 社会資源(住民主体の予防活動、通いの場、サロン、認知症カフェ等)の新規立ち上げ支援団体数 ○ 高齢者虐待通報先の周知のため、市民の学ぶ機会を提供しているか ○ 地域住民からの虐待通報が上がっているか ・ 令和3年度、認知症予防プロジェクトを新規に開始したケース件数 ○ 認知症サポーター養成講座における、65歳未満の地域住民参加者はいるか |
| <p>「ウ」が「いる」の場合、ニーズの把握方法を記載【自由記載】</p> <p>昨年実施した地区診断や各町の高齢者数、相談件数、内容などからニーズを把握。介護予防教室の参加者の話やサロン私の参加者、オレンジバトウオークの参加者から地域の情報が多く寄せられる。またバトウオークの最中各家家を回りながら最近独居になったとか、老老介護で苦労しているなど話ながら包括のチラシを投函して下さっている。推進会議で民生委員にアンケートを実施し心配だが声をかけるのに躊躇しているケースなどを把握するようにした。</p> |
| <p>「エ」が「いる」の場合、その具体的な内容を記載【自由記載】</p> <p>坂を登れなくなることで福祉会館での様々な活動に参加できなくなることが明らかになり坂を登れる足腰を維持することを目的に福祉会館で会場に恵まれている強みを活かし地域の介護事業者へ介護予防教室の講師依頼をして回り賛同を得られた事業者へ講師を務めていただきコロナ感染に留意しながら密を避けての介護予防教室を回数を増やして開催、高齢者の多い三矢小台、上矢切、下矢切、栗山の参加者が劇的に増加した。寄せられた情報で訪問した方が良いと判断したケースには「地域の健康相談」という名目でぶらり訪問し支援に繋がっているケースもある。虐待についての通報が少ないことから住民向け権利擁護の講演会を開催住民からの通報あり。</p> |

| | | | | |
|---------------------------------------|---|--|------|---|
| ③多様なニーズに対応できる知識・経験のある職員の確保・育成を行っているか。 | | 3 | 3.00 | |
| 評価の根拠 | ア. 3職種(それぞれの職種の準ずる者は含まない)を配置しているか。(令和3年度4月末時点) | いない | / | |
| | イ. 年間を通じて3職種(それぞれの職種に準ずる者は含まない)の必要人数が配置されているか。 | いない | | |
| | ウ. 市町村から、年度当初までにセンター職員を対象とした研修計画が示されているか。 | いる | | |
| | エ. センターに在籍する全ての職員に対して、センターまたは受託法人が、職場での仕事を離れての研修(Off-JT)を実施しているか。 | いる | | |
| | オ. 市、県が行う研修にセンター職員が参加しているか。 | 全専門職が研修に参加している | | |
| | カ. 職員に対する職場内研修の開催回数(伝達研修は除く) | 24 | | 回 |
| | キ. すべての専門職の「連携活動評価尺度」の得点 | ① 36 ② 29 ③ 38 ④ ⑤ ⑥ ⑦ 合計 103 平均 34.33 | | 点 |
| ④利用者が利用しやすい相談体制が組まれているか。 | | 4 | 4 | |
| 評価の根拠 | ア. 夜間・早朝の窓口(連絡先)を設置し、窓口を住民にパンフレットやホームページ等で周知しているか。 | いる | / | |
| | イ. 平日以外の窓口(連絡先)を設置し、窓口を住民にパンフレットやホームページ等で周知しているか。 | いる | | |
| | ウ. パンフレットの配布等、センターの周知を行っているか。 | いる | | |

| |
|---|
| 「オ」が「いる」の場合、その研修内容を記載【自由記載】 5/13千葉県福祉ふれあいプラザ専門職研修オンライン講座 5/14地域包括支援センター職員向け研修会 6/12松戸市介護支援専門員協議会研修 7/8松戸認知症コーディネーターの会 第1回フォローアップ研修、高齢者虐待における事例研究等に関する調査研究説明会 8/30千葉県高齢者虐待防止対策研修 9/14, 9/15認知症地域支援推進研修 9/16千葉県高次脳機能障害支援普及事業講習会 10/7専門職向け認知症関連研修会 10/18アウトリーチ事例検討会兼認知症サポート医フォローアップ研修 10/21地域ケア会議に係る市町村研修会 10/26千葉県認知症サポーターステップアップ講座指導者養成研修10/27松戸市介護支援専門員地域同行型研修アドバイザー事前研修 2/17千葉県高齢者虐待防止対策研修 11/7第3回認知症初期集中支援チーム員研修 2/22困難事例対応法務講演会 11/17第1回千葉県認知症施策推進セミナー 2/26認知症疾患医療センター研修会 11/22松戸市虐待対応機関合同研修会 3/2高齢者虐待防止専門職向け研修会 12/6千葉県地域包括支援センター初任者研修 3/22第3回地域包括支援センター合同研修会 12/10第2回千葉県キャラバン・メイト養成研修 3/4松戸市介護支援専門員協議会研修会 12/17第2回地域包括支援センター合同研修 3/25地域リハ調整者養成研修 12/21千葉県地域包括支援センター現任研修 3/31高齢者虐待ケース台帳入力説明会 1/22第5回認知症初期集中支援チーム員研修 1/24高齢者虐待防止専門職向け研修会 1/28認知症初期集中支援チームフォローアップ研修 1/28松戸市介護予防ケアマネジメント研修会 2/7松戸市虐待防止条例専門職向け研修 2/8小規模多機能・看護小規模多機能研修会 2/10松戸市市長申し立て研修会 2/15千葉県認知症コーディネーター・地域支援推進員フォローアップ研修 |
| / |

| | | | |
|----------------------------------|---|----|---|
| ⑤個人情報保護の徹底を行っているか。 | | 4 | 4 |
| 評価の根拠 | ア. 個人情報保護に関する市町村の取扱方針に従って、センターが個人情報保護マニュアル(個人情報保護方針)を整備しているか。 | いる | |
| | イ. 個人情報が漏えいした場合の対応など、市町村から指示のあった個人情報保護のための対応を、各職員へ周知しているか。 | いる | |
| | ウ. 個人情報の保護に関する責任者(常勤)を配置しているか。 | いる | |
| | エ. 個人情報の持出・開示時は、管理簿への記載と確認を行っているか。 | いる | |
| ⑥利用者の満足度向上のための適切な苦情対応体制を整備しているか。 | | 4 | 4 |
| 評価の根拠 | ア. 市町村の方針に沿って、苦情対応体制を整備し、苦情内容や苦情への対応策について記録しているか。 | いる | |
| | イ. センターが受けた介護サービスに関する相談について、市町村に対して報告や協議を行う仕組みが設けられているか。 | いる | |
| | ウ. 苦情対応窓口に関する情報(連絡先、受付時間等)を公開しているか。 | いる | |
| ⑦プライバシーに配慮した相談環境を整備しているか。 | | 4 | 4 |
| 評価の根拠 | ア. 相談者のプライバシー確保に関する市町村の方針に沿い、プライバシーが確保される環境を整備しているか。 | いる | |

| | | | | | | | |
|--|--|--|--|--|--|--|--|
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |

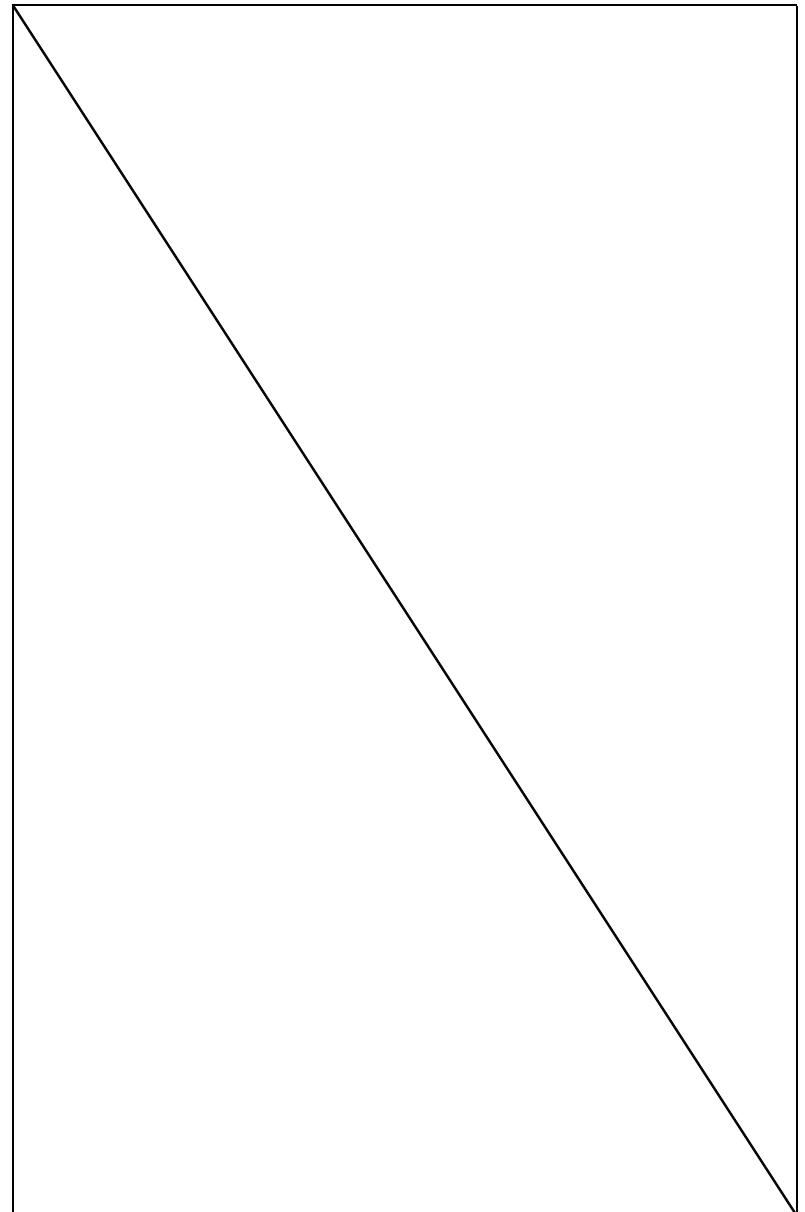
2. 総合相談支援業務

| 評価項目 | 回答欄 | 行政評価 | | | |
|---|---|------|---|----|----|
| ①地域の社会資源について把握および開発を行っているか。 | 3 | 3.4 | | | |
| 評価の根拠 | ア. 地域における関係機関・関係者のネットワークについて、構成員・連絡先・特性等に関する情報をマップまたはリストで管理しているか。 | いる | / | | |
| | イ. 社会資源(住民主体の予防活動、通いの場、サロン、認知症カフェ等)に関するマップを令和2年度内に更新をしているか。 | いる | | | |
| | ウ. 高齢者支援等を行う介護保険外サービス(配食、見守り、移送、サロン、地域の予防活動等)を行う地域(圏域内・外)の社会資源に繋げた社会資源の数【重複可】 | 圏域内 | | 48 | ヶ所 |
| | | 圏域外 | | 33 | ヶ所 |
| | | 合計 | | 81 | ヶ所 |
| エ. 重点項目 社会資源(住民主体の予防活動、通いの場、サロン、認知症カフェ等)の新規立ち上げ支援団体数。 | 0 | 団体 | | | |
| オ. 社会資源の運営支援を目的として、会議(オンライン含む)に出席した延べ回数。 | 28 | 回 | | | |
| ②相談内容の把握・分析を行っているか。 | 4 | 3.92 | | | |
| ア. 相談事例の終結条件を、市町村と共有しているか。 | いる | / | | | |
| イ. 相談事例の分類方法を、市町村と共有しているか。 | いる | | | | |
| ウ. 1年間の相談事例の件数を、市町村に報告しているか。 | いる | | | | |
| エ. 相談事例解決のために、市町村への支援を要請し、その要請に対し市町村からの支援があったか。 | いる | | | | |
| オ. 家族介護者からの相談について、相談件数や相談内容を記録等に残留して取りまとめているか。 | いる | | | | |

| 事例・特記項目 |
|---|
| 「エ」の各社会資源の種類・特徴・開催回数(週・月〇回)・立ち上げ支援の方法の詳細情報を記載【自由記載】 【種類】 【特徴】 【開催回数(週・月〇回)】 【会議内容等】 |
| 「オ」の各社会資源の種類・会議開催日(〇月〇日)・会議内容等の詳細情報を記載【自由記載】 【種類】 移動支援打ち合わせ 4/21, 5/13, 6/10, 6/16, 7/21, 8/24, 10/25, 11/29, 12/20, 1/24, 2/3, 2/14, 2/21, 2/26, 3/14 サロン わたし 及び振り返りの会 4/5, 5/10, 6/7, 7/5, 10/4, 11/1, 12/6, 1/11, 3/15(総会) 認知症カフェ交流会 7/28(当番包括) 認知症世話人会 5/20, 8/26, 12/16 【会議開催日】 【会議内容等】 |
| / |

評価の根拠

| | | |
|--|------------------------|--------|
| カ. 分類別の相談件数 (高齢者1000人当たりの件数) a.本人又は親族への支援 b.本人又は親族以外の機関への支援 | a.本人又は親族への支援 (件数) | |
| | 介護に関する相談 | 1653 |
| | 退院後の生活に関する相談 | 285 |
| | 健康・医療に関する相談 | 1355 |
| | 認知症に関する相談 | 397 |
| | 経済的相談 | 361 |
| | 介護予防に関する相談 | 91 |
| | 家族調整に関する相談 | 154 |
| | 権利擁護に関する相談 | 104 |
| | 諸制度や地域の社会資源に関する相談 | 133 |
| | 日常生活(家事・外出等)に関する相談 | 143 |
| | 人・地域との交流に関する相談 | 79 |
| | 安否確認(見守り含む) | 148 |
| | 介護者の離職防止に関する相談 | 2 |
| | 多分野に関する相談 | 7 |
| | その他 | 306 |
| | 総計 | 5218 |
| | 高齢者1000人当たりの件数 | 1015.4 |
| | b.本人又は親族以外の機関への支援 (件数) | |
| | 介護に関する相談 | 1488 |
| | 退院後の生活に関する相談 | 361 |
| | 健康・医療に関する相談 | 1120 |
| | 認知症に関する相談 | 289 |
| | 経済的相談 | 390 |
| | 介護予防に関する相談 | 10 |
| | 家族調整に関する相談 | 238 |
| | 権利擁護に関する相談 | 141 |
| | 諸制度や地域の社会資源に関する相談 | 72 |
| | 日常生活(家事・外出等)に関する相談 | 80 |
| | 人・地域との交流に関する相談 | 44 |
| 安否確認(見守り含む) | 102 | |
| 介護者の離職防止に関する相談 | 0 | |
| 多分野に関する相談 | 5 | |
| その他 | 366 | |
| 総計 | 4706 | |
| 高齢者1000人当たりの件数 | 915.7 | |



| | | | |
|--|---|--|-----|
| ③相談事例の解決のために、進捗管理や他分野との連携等、必要な対応を行っているか。 | | 4 | 3.4 |
| 評価の根拠 | ア. 全ての相談事例について相談受付表を作成し、緊急性を判断しているか。 | いる | |
| | イ. 全ての相談事例において、緊急性に变化がないか、3職種で定期的に確認・共有するしくみを整備しているか。 | 週1回実施している | |
| | ウ. 全ての相談事例において、必要に応じ他分野との連携を図っているか。 ※他分野とは、警察、消防などの機関、済困窮や就労、母子関係部署、法律家などを示す | いる | |
| | エ. 解決困難な相談事例を分類し、進捗管理を毎月行い、市(基幹型)に報告する仕組みはあるか。 | 報告する仕組みがあり、緊急度チェックリストに該当したケースは全てモニタリング予定表を市に提出している | |
| | オ. 地域で開催される行事等(出張相談窓口も含む)において、相談ブースの開設を行っているか。 | いない | |

| |
|--|
| <p>「イ」が週1回・月1回・不定期で実施している場合、具体的内容を記載(共有方法・記録の有無など)</p> <p>【共有方法】 毎朝30分から1時間かけて昨日の新規のケースの内容、緊急度、支援方針の確認を行う、また継続ケースについても昨日の支援の動きについて確認するようにしている。そこで他機関への相談連携が必要な場合は連携の仕方、内容について協議する。また台帳を提出する際、再度チェックするようにしている。</p> <p>【記録の有無】 各自がメモを取るほか業務日報に当番が記録している。</p> <p>「ウ」が「いる」の場合、その具体的な連携先、内容を記載【自由記載】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基幹相談支援センター 高齢者の家族の中に障がい者があり、虐待が疑われたケースなどに訪問する際の配慮すべき点や支援方針を共有、またその障がい者の支援について関係者とも状況を共有し問題解決に向けて協力し支援している。 ・生活支援課 精神疾患を抱えているケースが疾患ゆえに介護サービスに結び付けずにいるケースに生活支援課が主治医と連携を取り、医療として協力していただけたところの聞き取り、住む場所の選定場所の可能性について提案していただくなどして本人を交えて今後について具体的な話し合いが進められている。 ・アドバイザー事業を活用し終活について墓じまいや相続について具体的な相談に乗っていただいたり、認知症が疑われる高齢者と何らかの障害が疑われる子のみの世帯の亡くなった夫の相続などについて支援の方向性について相談しながら支援している。基幹型相談支援センターにも同行していただき子についての見立てをしていただき使える制度がないかなどの相談をかけた。 |
|--|

3. 権利擁護業務

| 評価項目 | | 回答欄 | | 行政評価 | 事例・特記項目 |
|--|--|-------|-----|------|---------|
| ①成年後見制度の活用を促進しているか。 | | 3 | | 4 | |
| 評価の根拠 | ア. 成年後見制度の市町村長申し立てに関する判断基準が、市町村から共有されているか。 | | いる | | |
| ②関係機関と連携しつつ、高齢者虐待事例に対して適切かつ迅速に対応しているか。 | | 4 | | 4 | |
| 評価の根拠 | ア. 高齢者虐待事例及び高齢者虐待を疑われる事例への対応の流れについて、市町村と共有しているか。 | | いる | | |
| | イ. センターまたは市町村が開催する高齢者虐待防止に関する情報共有、議論及び報告等を行う会議において、高齢者虐待事例への対応策を検討しているか。 | | いる | | |
| ③消費者被害の防止に関する啓発・取組を行っているか。 | | 4 | | 4 | |
| 評価の根拠 | ア. 消費者被害に関し、センターが受けた相談内容について、消費生活に関する相談窓口または警察等と連携の上、対応しているか。 | | いる | | |
| | イ. 消費者被害に関する情報を、民生委員・介護支援専門員・ホームヘルパー等へ情報提供する取組を行っているか。 | | いる | | |
| ④その他、権利擁護に関する取組を行っているか。 | | 4 | | 4.10 | |
| | ア. 権利擁護(高齢者虐待防止市民向け講演会を含む)に関する講演会の開催回数・参加者数。 | a開催回数 | 5 | 回 | |
| | | b参加者数 | 288 | 人 | |
| イ. 高齢者虐待防止のため、男性養護者支援(社会資源の育成、社会資源の周知等)を実施しているか。※個別支援は含まない | | いる | | | |

「イ」が「いる」の場合、その支援方法を記載【自由記載】
 広報で介護者のつどいを掲載する際、男性介護者歓迎と掲載していただくようにし、併せて男性介護者だった方(傾聴、ピアカウンセリングの希望のある方)に来ていただけるよう準備をして開催した。

| | | | |
|-------|--|----|--|
| 評価の根拠 | ウ. 重点項目 高齢者虐待通報先の周知のため、市民の学ぶ機会を提供しているか。 ※全地域包括合同の高齢者虐待防止市民向け講演会以外の高齢者虐待防止に関する講演会、パートナー講座、講演会DVDの貸出、各会議での研修等が対象。 | いる | |
| | エ. 重点項目 地域住民からの虐待通報は上がっているか。 ※地域住民は家族、虐待者、被虐待者、民生委員、近隣住民、知人を指す | いる | |

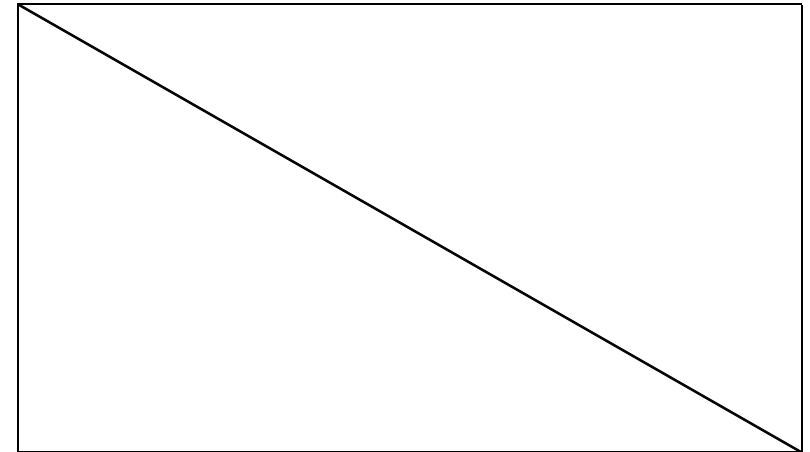
| |
|--|
| 「ウ」が「いる」の場合、その詳細(日時・内容・対象者等)を記載【自由記載】 |
| 7/20 精神疾患、発達、知的障害を抱える方の理解と支援 市の貸出DVD視聴の他、講師による講義 対象 ケアマネ |
| 10/13 事例を通じて学ぶ虐待対応の実際について 包括職員の講義 対象 ケアマネ |
| 7/19 市民向け 虐待の種類について、虐待の傾向について、虐待を早期発見、悪化防止のための必要な情報についてクイズも交えて印象に残る工夫をした講演を実施 |
| 3/4 市民向け 成年後見とは、日常生活支援事業について、最近の消費者被害について職員作成のパワーポイント資料やチラシなどを使用して講演。 |

4. 包括的・継続的ケアマネジメント支援業務

| 評価項目 | 回答欄 | 行政評価 | |
|-----------------------------|--|------|--|
| ①地域の介護支援専門員の状況把握・連携が図れているか。 | 3 | 4 | |
| 評価の根拠 | ア. 担当圏域における居宅介護支援事業所のデータ(事業所ごとの主任介護支援専門員・介護支援専門員の人数等)を把握しているか。 | いる | |
| | イ. 介護支援専門員を対象にした研修会・事例検討会等の開催計画を策定し、年度当初に、指定居宅介護支援事業所に示しているか。 | いる | |
| | ウ. 介護支援専門員に対するアンケート・意見収集等について市町村からの情報提供や、市町村による研修会の内容等を踏まえ、地域の介護支援専門員のニーズや課題に基づく事例検討会や、個別事例を検討する地域ケア会議等を開催しているか。 | いる | |
| | エ. 担当圏域の介護支援専門員のニーズに基づいて、多様な関係機関・関係者(例:医療機関や地域における様々な社会資源等)との意見交換の場を設けているか。 | いる | |
| | オ. 介護支援専門員が円滑に業務を行うことができるよう、地域住民に対して介護予防・自立支援に関する意識の共有を図るための出前講座等を開催しているか。 | いる | |
| | カ. 介護支援専門員から受けた相談事例の内容を整理・分類した上で、経年的に件数を把握しているか。 | いる | |

| 事例・特記項目 |
|---------|
| |

| | | | | |
|--|---|----------------|------|---|
| ②地域の介護支援専門員に対して、個別指導・相談・助言を効果的に行っているか。 | | 3 | | 2 |
| 評価の根拠 | ア. 令和3年度、1年間における「地域の介護支援専門員を対象にした研修会・事例検討会」の開催回数。 | 単独 | 0 | 回 |
| | | 合同 | 5 | 回 |
| | | 合計 | 5 | 回 |
| | イ. 同行訪問による個別指導・助言の件数（サービス担当者会議への出席は除く）。（高齢者1000人当たりの件数） | 合計 | 59 | 件 |
| | | 高齢者1000人当たりの件数 | 11.5 | 件 |
| | ウ. サービス担当者会議への出席による指導・助言の件数。（高齢者1000人当たりの件数） | 合計 | 3 | 件 |
| 高齢者1000人当たりの件数 | | 0.6 | 件 | |



5. 地域ケア会議関係業務

| 評価項目 | 回答欄 | 行政評価 |
|--|-----|------|
| ①地域ケア会議の開催を通じて、地域の課題を把握しているか。 | 4 | 3.92 |
| ア. 地域ケア会議が発揮すべき機能、構成員、スケジュール等を盛り込んだ開催計画が市町村から示されているか。 | いる | |
| イ. センター主催の地域ケア会議の運営方針を、センター職員・会議参加者・地域の関係機関に対して周知しているか。 | いる | |
| ウ. センター主催の地域ケア会議において、個別事例について検討しているか。 | いる | |
| エ. センターの主催の地域ケア会議において、多職種と連携して、自立支援・重度化防止等に資する観点から個別事例の検討を行い、対応策を講じているか。 | いる | |
| オ. 市町村から示された地域ケア会議における個人情報の取扱方針に基づき、センターが主催する地域ケア会議で対応しているか。 | いる | |
| カ. センター主催の地域ケア会議において、議事録や検討事項をまとめ、参加者間で共有しているか。 | いる | |

| 事例・特記項目 |
|---|
| <p>「ク」が「実施している」場合、その具体的方策を記載【自由記載】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個別ケア会議についてはケアマネジャーや民生委員からの相談ケースからの相談ケースを中心に選定した。それが難しい場合は事業者に連絡し提供依頼する。 ・本年は精神疾患の方やセルフネグレクト、意思決定支援における各関係機関との連携や支援について専門職からの意見を交えて取り組めた。 ・推進会議ではコロナ禍におけるフレイル予防について松戸市の施策を踏まえた、個人や地域で取り組むためのグループワークを行い、課題点や工夫点、今後求められること等を共有できた。 ・また、別のテーマとしては民生委員を中心にコロナ禍における地域での心配な方へのかわり方、新たに生まれた地域課題に関して意見交換、共有を行い、新しい生活スタイルでの見守り方法等について協議した。 |
| <p>「ケ」が「いる」の場合に、参加した医療・介護関係者以外の関係者の職種を記載 基幹相談支援センター職員、スマイル職員</p> |
| <p>「コ」が「実施している」場合、①職種②意見を聴取した方法③ケア会議内での意見反映方法を記載</p> <ul style="list-style-type: none"> ①医師、訪問介護事業者 ②口頭で確認し書面に残した。書面で事例についての助言を頂いた。 ③WEB会議で事例について参加者の意見が中断したタイミングで使用させていただき、それによって意見がまた出るようになった。 <p>まとめという形でほかの参加者から出なかった意見を代読させていただいた。</p> |

| | | | |
|-------------------------------------|---|-------------------|---|
| 価 の 根 拠 | キ. 地域ケア会議で検討した個別事例について、その後の変化等をモニタリングしているか。 | いる | |
| | ク. 地域包括ケア推進会議・地域個別ケア会議の開催に当たって、関係機関等の意見を聴取した上で、議題とする事例やテーマを選定しているか。 | 個別と推進の各々1回は実施している | |
| | ケ. 議題とする事例やテーマにあわせて、地域ケア会議の参加者を決定しているか。 | いる | |
| | コ. 地域個別ケア会議、推進会議において出席できなかった方へ、事例やテーマに即した意見を直接聴取し、会議内でその意見を共有しているか。 | 全ての会議で実施している | |
| | サ. 地域個別ケア会議において、介護支援専門員が事例提供を行い、介護支援専門員が会議を通じて支援を受けられる運営を行っているか。 | いる | |
| | シ. 地域個別(自立支援型含む)ケア会議において、写真・映像等を用いて、会議を開催しているか。※検査結果データ、お薬手帳コピー含む | いる | |
| ②3層構造の地域ケア会議の連携を通じて、地域の課題解決を図っているか。 | | 4 | 4 |
| 評 価 の 根 拠 | ア. センター主催の地域ケア会議において、地域課題に関して検討しているか。 | いる | |
| | イ. センター主催の地域ケア会議における検討事項をまとめたものを、市町村に報告しているか。 | いる | |
| | ウ. 市の地域ケア会議での決定事項を、必ず地域包括ケア推進会議で報告しているか。 | いる | |

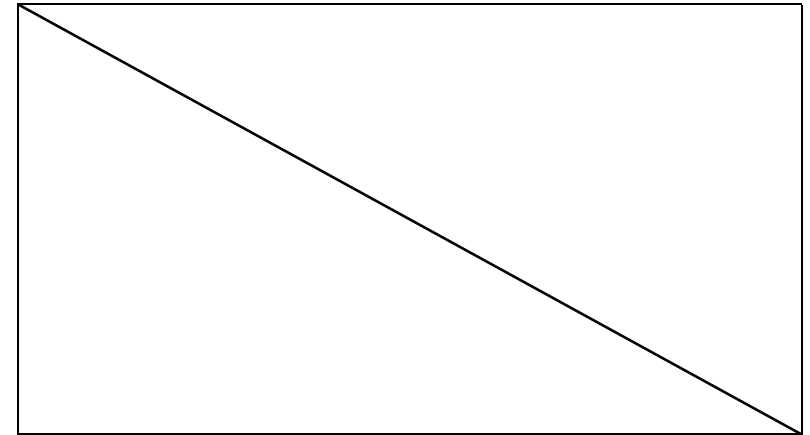
| |
|--|
| 「サ」が「いる」の場合、運営方法や工夫点を記載【自由記載】 介護支援専門員が支援の中で困難と感じている点に関してテーマに沿った専門職の方々からご意見をいただきつつ、それまでに見落としていた課題や今後の展望まで多職種が幅広く意見交換ができるよう事前に打合せを行い、必要であれば意見をいただく方へも事前によりサーチ等いただくよう工夫した。 |
| 「シ」が「実施している」場合、具体的な取組等を記載【自由記載】 地域個別ケア会議(自立支援型含む)において参加者がイメージしやすいよう、お薬手帳のコピーの共有や福祉用具等に関しては事前に打診をし現物または写真等を用いてご説明いただく等行った。 |
| ※地域包括ケア推進会議での協議後、実際に地域包括が取り組んだ実績があれば記載【自由記載】 コロナ禍におけるフレイル予防の取り組みの上で介護予防教室でフレイル予防のためのDVDを使用し、オンライン化に向けた周知を行った、また介護予防教室参加者に対して、ん中間、年度末にフレイルのチェック表を記入してもらい評価を行った。民生委員、事業参加された地域住民を中心に心配な近所の高齢者に関して早期相談、連携を強化し実際相談に繋がりがり支援しているケースがある。民生委員からは「包括ではないかもしれないけど」という相談も増えており、適切な相談先につなぐ支援も増えている。 |
| |

6. 介護予防ケアマネジメント・介護予防支援関係業務

| 評価項目 | | 回答欄 | | 行政評価 | |
|---------------------------|---|------|---|------|---|
| ①自立支援に向けたケアマネジメントを行っているか。 | | 4 | | 3.2 | |
| 評価の根拠 | ア. 自立支援・重度化防止等に資するケアマネジメントに関し、市町村から示された基本方針を、センター職員及び委託先の居宅介護支援事業所に周知しているか。 | いる | | / | |
| | イ. 介護予防ケアマネジメント・介護予防支援のケアプランにおいて、保険給付や介護予防・生活支援サービス事業以外の多様な地域の社会資源を位置づけたことがあるか。 | いる | | / | |
| | ウ. 利用者のセルフマネジメントを推進するため、市町村から示された支援の手法を活用しているか。 | いる | | / | |
| | エ. 自立支援型個別ケア会議への出席回数 | 回数 | 4 | 回 | / |
| | | 延べ人数 | 7 | 人 | / |
| オ. ケアマネジメントC作成件数。 | 0 | | 件 | / | |

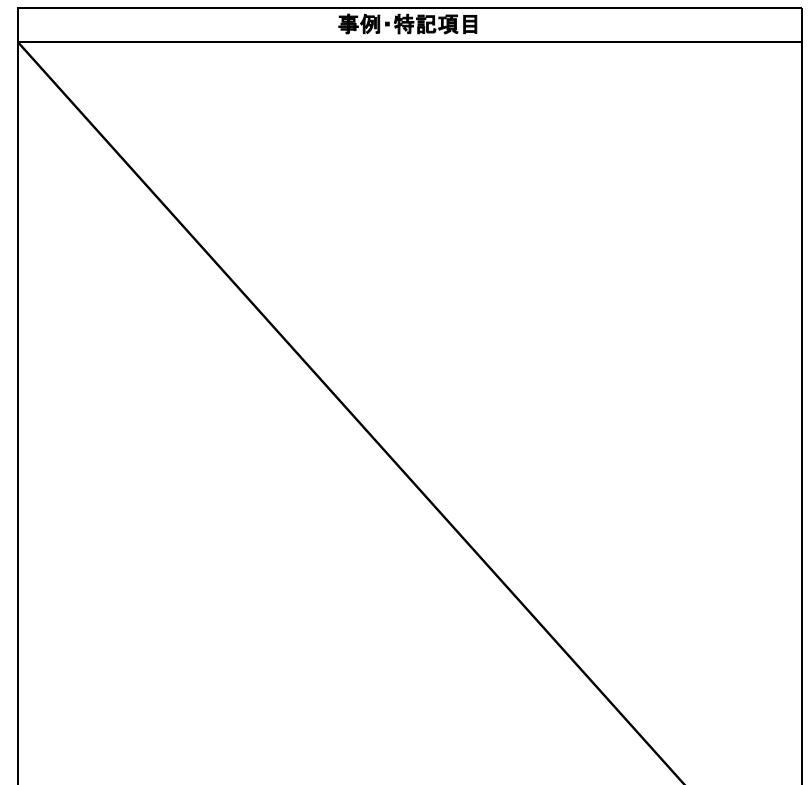
| 事例・特記項目 |
|---------|
| / |

| | | | |
|-------------------------------------|--|----|---|
| ② 在宅介護支援事業者へのケアマネジメントの委託を適正に行っているか。 | | 4 | 4 |
| 評価の根拠 | ア. 介護予防ケアマネジメント・介護予防支援を委託する際の事業所選定の公平性・中立性確保のための指針が市町村から示されているか。 | いる | |
| | イ. 介護予防ケアマネジメント・介護予防支援を委託した場合は、台帳への記録及び進捗管理を行っているか。 | いる | |
| | ウ. ケアマネジメント業務の委託先選定時に公正・中立性を担保するための工夫を行っているか。 | いる | |



7. 在宅医療・介護連携推進業務

| 評価項目 | | 回答欄 | 行政評価 | |
|--|--|-----------|------|---|
| ① 医療関係者とのネットワークを活用して、地域における医療的な課題の解決を図っているか。 | | 3 | 3.7 | |
| 評価の根拠 | ア. 医療関係者と合同の事例検討会に参加しているか。 | いる | | |
| | イ. 医療関係者と合同の講演会・勉強会等に参加しているか。 | いる | | |
| | ウ. 在宅医療・介護連携推進事業における相談窓口に対し、相談を行っているか。 | いる | | |
| | エ. 地域サポート医へ相談を行った件数 | | | |
| | a. 相談支援件数 | 相談支援件数 | 396 | 件 |
| | | 内、サポート医事業 | 12 | 件 |
| | b. アウトリーチ件数 | アウトリーチ件数 | 1 | 件 |



| | | |
|--|----|--|
| オ. 在宅医療・介護連携支援センターが開催する研修会にセンター各職員(事務員は除く)が一度は参加しているか。 | いる | |
|--|----|--|

| | | |
|--|--|--|
| | | |
|--|--|--|

8. 認知症高齢者支援業務

| 評価項目 | | 回答欄 | | 行政評価 |
|---|--|-----------------|-------|------|
| ①認知症の早期把握・早期対応を推進しているか。 | | 3 | | 3.25 |
| 評価の根拠 | ア. 認知症初期集中支援チームと訪問支援対象者に関する情報共有を図っているか。 | いる | | |
| | イ. 地域包括支援センター自身が主体となって認知症初期集中支援チーム事業を実施しているか。 | いる | | |
| | ウ. 地域包括支援センター自身が認知症初期集中支援チームとして実施した事例の件数 | 2 | 件 | |
| | エ. 重点項目 令和3年度認知症予防プロジェクトにおいて、新規に開始したケース件数(高齢者人口1000人当たりの件数) | 件数 | 4 | 件 |
| | 高齢者1000人当たりの件数 | 0.8 | | |
| ②認知症高齢者に対する地域での支援基盤を構築しているか。 | | 4 | | 3.75 |
| 評価の根拠 | ア. 「専門職と協力しながらの実践活動」を行った、オレンジ協力員の延べ人数 | 延べ人数 | 190 | 人 |
| | イ. センターが開催した全ての認知症サポーター養成講座の開催回数・日程・主な対象者・参加者数。(人口10,000人当たりの参加者数) | 参加者合計人数 | 247 | 人 |
| | | 人口10,000人当たりの人数 | 128.4 | |
| | ウ. 重点項目 認知症サポーター養成講座における、65歳未満の地域住民参加者はいるか。 ※認サポアンケートの関係上「50代以下」を集計対象とする | 65歳未満参加者 | 199 | 人 |
| エ. 認知症地域支援推進員として、認知症高齢者の社会参加のための取組みを行っているか。 | いる | | | |

| 事例・特記項目 |
|---|
| |
| 「ウ」が「1人以上」の場合は、その詳細(65歳以下 参加者総数・主な対象者・実施時の工夫点等)記載【自由記載】 【65歳以下 参加者総数】 199名 【主な対象者】 高校生、福祉関係勤務者 【実施時の工夫点等】 認知症は誰でもなる可能性があり長く人生を歩かれた先輩であるという尊敬の念、人としての思いやりが基本であることを伝える。 高校生ができることという視点、で具体的な関わり方について伝える。 DVDを利用して具体的な認知症の方の様子を伝える。 「エ」が「いる」の場合は、具体的な取組内容を記載【自由記載】 認知症のご夫婦が認知症予防に取り組みたいと相談に來られ介護予防教室やオレンジバトウオークに参加していただくようにしてオレンジ協力員の方の声掛けもあり楽しそうに参加され見守り支援につながっている。ボランティア活動をされていたデイ事業所とも連携しボランティア再開も相談中。 他市から呼び寄せられた認知症が軽度ある方が居場所がなくなったと閉じこもりがちなってしまたという相談を受けバトウオーク、サロンわたくしでオレンジ協力員の方と顔見知りになり毎回楽しみに参加されている。 |

9. 松戸市指定事業等

| 評価項目 | | 回答欄 | | 行政評価 | 事例・特記項目 |
|--------------------------------|---|----------------|-------|------|---|
| ①松戸市指定事業を適切に実施しているか。 | | 4 | | 2.58 | |
| 評価の根拠 | ア. センターが開催する介護予防教室の開催回数及び参加者数。 (高齢者1,000人当たりの開催回数・参加者数) | 参加者数 | 802 | 人 | <p>「ア」の実施回数及び最も効果的な活動を1つ記載 ・実施回数 35回 ・もっとも効果的だった活動(1つ) 【教室名】 矢切いきいきライフ応援クラブ 【参加者数】 716名 【日程】 4/6, 4/19, 5/12, 5/17, 6/9, 6/14, 6/23, 7/9, 7/19, 8/11, 8/17, 8/25, 9/7, 9/13, 9/29, 10/11, 10/13, 10/27, 11/2, 11/8, 11/24, 12/10, 12/13, 12/22, 1/12, 1/17, 1/25, 2/9, 2/14, 2/24, 3/9, 3/14, 3/24, 3/30 【内容】 椅子に座っての全身のストレッチ、口腔体操、コグニサイズなど 【効果】 高齢者数の多い三矢小台、下矢切、上矢切の参加者が急増していることや参加者がほとんどなかった栗山、柿の木、萩町の参加者が増加している。アンケートも前期、後期で実施しており7割が体調が良くなったと感じている。フレイルチェックで口腔に3名該当した方がいたが1名を除いて改善していた。</p> |
| | | 高齢者1000人当たりの人数 | 156.1 | | |
| | イ. センターが開催する認知症予防教室の開催回数、参加者数及び参加者の活動継続割合。 (高齢者1,000人当たりの開催回数・参加者数) ※活動継続者割合(%)=活動継続者数(実数)/教室参加者数(実数)×100 | a.参加者人数 | 14 | 人 | |
| | | 高齢者1000人当たりの人数 | 3 | | |
| | | b.活動継続割合 | 100 | % | |
| | ウ. ボランティアの育成をしているか。 (オレンジ協力員への支援は除く) | いない | | | |
| エ. 地域包括支援センター主催による介護者のつどいの開催回数 | 2 | | 回 | | <p>「エ」が「いる」の場合、開催内容を記載【自由記載】 男性介護者で妻を失くした方が今介護をしている方の傾聴や相談に乗ることで役に立ちたいとの思いを聞き介護者の集いに来ていただきご自身の経験を話していただきながら会を進める様に企画、現在介護中の男性介護者にもお声かけした。</p> |

| | | |
|---|----|---|
| ②生活支援コーディネーターや協議体と連携した取組を行っているか。 | 4 | 4 |
| <p>評価の根拠</p> <p>ア. 生活支援コーディネーターや協議体・地域における高齢者のニーズや社会資源について協議をしているか。</p> | いる | |

